

# 石田 やすひろ

宮前ガバナンス・市政報告



## 自転車の交通安全対策を求め！

### ～川崎市自転車活用推進計画～



川崎市議会12月定例会において、安全対策を強化した自転車交通環境の整備を求める質疑を行いました。交通事故発生件数は依然、高い水準で推移しています。本市の令和4年の自転車関係事故発生件数は865件です。前年と比較して14件増加しました。市内の交通事故発生件数に対して、自転車関係事故の割合は、3割を超えています。本市では「川崎市自転車活用推進計画」に基づいて、交通安全対策等を実施しています。事故を未然に防止するための取り組みを含め、令和2年2月に「川崎市自転車活用推進計画」第1期を策定しました。令和4年3月には第2期目となる計画を策定し、4年間の折り返しを迎えようとしています。第2弾では、「自転車の通行環境の整備」に注目してみます。

市の回答によると、計画第2期では、危険箇所と位置付けた398か所の安全対策を行なっています。自転車利用の多い駅周辺の道路や主要な幹線道路では、計画延長約216キロメートルにおいて、矢羽根の設置などの整備を推進しています。現在の整備の状況は、今年度末までに、危険箇所323か所の整備が完了する予定です。また、自転車利用の多い駅周辺の道路や主要な幹線道路の整備については、今年度末までに約125キロメートルの整備が完了し、進捗率58%となる見込みです。

各区の取組状況は、川崎区殿町地区、高津区武蔵溝ノ口駅、多摩区登戸・向ヶ丘遊園駅周辺の整備が完了しています。現在は主に、川崎区では川崎駅周辺、幸区では新川崎・鹿島田駅周辺、中原区では武蔵小杉駅周辺、高津区では武蔵新城駅周辺、宮前区では鷺沼・宮前平駅周辺、多摩区では中野島駅周辺、麻生区では新百合ヶ駅周辺の整備を進めています。また、市道尻手黒川線や県道川崎府中等、主要な幹線道路の整備を進めています。

今後は、危険箇所の安全対策として、令和6年度末に、398か所全てが完了する予定です。また、自転車利用の多い駅周辺道路等については、令和7年度末までに計画延長約216キロメートルに対し、約186キロメートル、進捗率86%の整備を見込んでいます。裏へ続く→

#### プロフィール

元川崎市議会議長、市立犬蔵中学校卒業、明治大学公共政策大学院卒業、現在、監査委員、川崎市議会スポーツ振興議員連盟会長

#### ホームページ



#### 政務活動事務所

石田やすひろ事務所  
〒216-0035  
住所 川崎市宮前区馬絹6-24-26  
TEL 044-861-6870  
FAX 044-854-0798  
mail: miyamae@ishidayasuhiro.com

宮前区の自転車の通行環境の整備として計画に、危険箇所、危険区間として45箇所位置付けています。令和5年度の整備改良としては、市道鷺沼52号線の鷺沼小学校前や、市道有馬38号線、有馬222号線の川崎北高校前の整備、また、市道尻手黒川線の宮前平駅を中心とした、土橋交差点から馬絹交差点までの間を位置付けています。筆者の意見として議会で述べたのは、2期期間において、区内道路のハード面とソフト面の整備を確実に実施し、交通事故抑止につなげるよう要望しました。また、かわさき市政だよりの宮前区版12月号表紙には「ヘルメット 着けて防ごう致命傷」を標語に掲げ、自転車に関連した交通事故防止の広報・啓発を行なっていました。乗る側にあっても、こうしたルール・マナーの実践も、併せて重要になります。引き続き、事故発生を抑止となるよう、自転車の通行環境の整備促進に取り組んで参ります。

## 不足する駐輪場対策を求め ～川崎市自転車活用推進計画～

川崎市議会12月定例会において、不足する駐輪場対策を議論しました。市民の声の一部には、駐輪場の不足を指摘する声があります。現在の宮前区の人口は23万5145人です。川崎市総合計画第3期実施計画の将来人口推計によると、令和12年（2030年）から令和17年（2035年）までをピーク時と捉え、24万3千400人と予測しています。データからも分かるように、これからの区の人口は10年間、人口増を見込んでいます。自転車を利用する区民も比例して増える事が推測できます。川崎市自転車活用推進計画では、自転車の通行環境の整備、駐輪対策、自転車の活用、ルール・マナー啓発の、4つの基本政策を掲げています。今月はその1つにある、駐輪対策を取り上げ、議会でのやり取りをまとめてみました。



議会の質問では、宮前区内の駐輪場不足をどう捉え、対策を行なっているのか質しました。回答によると、駐輪需要を踏まえた市営駐輪場整備の推進として、宮前区内にある宮崎台、宮前平、鷺沼の3駅周辺において市営15か所、民間4か所、合計19か所の駐輪場を設置しています。収容台数は3,739台です。本市において毎年実施している利用実態調査では、宮前区における利用率は近年、70～80%台で推移しています。特に宮崎台駅では、駐輪場の設置場所により利用率が高い所や、時間帯によっては満車となる駐輪場もあり、本市として課題だと認識しています。

近年、子ども乗せた自転車等、大型化した自転車の利用者が増加する等、利用状況やニーズ等が変化しています。駐輪需要を踏まえた柔軟な対応として既存施設の改修や新たな整備を進めています。宮前平駅周辺第2施設では、ラックの撤去による子ども乗せ自転車の駐輪スペースを拡充しました。宮崎台駅周辺第6施設では、令和6年4月からの供用開始に向けて、現在、増設工事を施工しています。

宮前区内の駐輪場対策については、令和元年12月市議会定例会においても議論していました。当時から、宮前区内の各駅では駐輪需要が多く、時間帯によっては満車となる駐輪場もありました。特に宮崎台駅周辺では過去に、暫定的に歩道上に線を引き、駐輪場として活用してきた経緯もありました。今回の増設は、JAセレサ川崎のご協力もあり、令和6年4月から供用に向けて駐輪場の拡大を図っています。引き続き、議会において、駐輪需要に対応した適切な整備を行なっていくよう求めて参ります。